

COMET English Communication の GOAL Activity

池野 修

1. 新しい COMET English Communication

新学習指導要領に準拠した「英語コミュニケーション」教科書 *COMET English Communication* は、旧版の *COMET* の特徴である、(i) 言語材料（文法や語彙）の厳選（「少ないものを豊かに」）、(ii) 普通科だけではなく、工業科・農業科・商業科などの生徒も「自己関連性」を持てる題材、(iii) 見開き左ページに英文、右ページに活動群というレイアウトなどを引き継ぐ教材である。旧版の教科書との最大の違いは、各レッスンの終わりに GOAL Activity という見開きの 2 ページのセクションを作ったことである。

2. GOAL Activity

英語指導を「導入・理解」→「習熟」→「活用・表現」という 3 段階で考えてみると、GOAL Activity は「活用・表現」段階の活動である。使い古された例えかもしれないが、テニスをするだけで考えてみると、ラケットの振り方を学び（理解）、素振りや壁打ちを繰り返すこと（習熟）は重要ではあるが、それはテニスの試合（活用）につなげてこそ意味があるはずである。この点を重視し、新しい *COMET English Communication* では、「活用・表現」を本格的に取り扱うセクションを作った。

Lesson 1 (What Did You Do in Japan?) を例にとってこの活動を概観してみよう。この課の GOAL Activity は「思い出に残っている経験を英語で話そう」という発表活動である。ただし、いきなり発表を行うのはハードルが高いため、それに至るスモール・ステップを作っている。

まず最初に、GOAL Activity の前のページに Get More Information という活動を配している。これは、その課のテーマに関するリスニング活動（＝思い出に残る体験についてある生徒が発表し、別の生徒が質問しているのを聞く）であるが、GOAL

Activity で行う発表のモデル（＝発表の構成や用いる英語表現）を確認するステップともなっている。

GOAL Activity は次の 4 つのステップで構成されている。Step 1 では、提示される文 (*I traveled to Okinawa; I went to the summer festival; I had club activities* など 6 つ) を読み、自分に当てはまるもの、自分が興味のあるものにチェックを入れる。後の自分の発表でそのまま用いても良い。Step 2 では、一連の質問に答えることで、発表内容を英語で作文する。具体的には、①自分が今年の夏に経験したことを 1 つ挙げよう、②具体的に何をしたらか、思い出に残っていることを書こう、③その感想や印象を書こう、という 3 つである。Step 3 において、示された構成に従って英語で発表を行う。「自由に」ではなく、型を決めることで活動に取り組みやすくしている。Step 4 では、メモを取りながら発表を聞き、質問をする。このように、ステップ・バイ・ステップで生徒が自分の考えを発表することができるような構成にしている。

GOAL Activity に取り組む際には次の点にも留意したい。まず第 1 に、これは「言語形式（文法など）の使用」ではなく「メッセージの伝達」に焦点がある活動である。「過去形を使う」ではなく「記憶に残っている経験について発表する」、「動名詞を使う」ではなく「興味のある職業について語る」という発想で活動に取り組むようする。第 2 に、思考力・判断力・表現力の観点から、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」をよく考えるようにしたい。この活動にできるだけ明確な目的を持たせるように状況設定を工夫し、誰に対して伝えているのか、どうすればうまく伝わるのかなどの点をよく考えて活動を行うことが重要である。

(愛媛大学 教授)

COMET English Communication 代表著者